

第5学年「目的に応じて情報を関係付けて発信しよう」(全6時間)

1 単元について

(1) 単元の目標

- ① 情報と情報との関係付けの仕方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2) イ
- ② 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) ア
- ③ 図表を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B (1) エ
- ④ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関係付けの仕方を理解し使っている。(2)イ	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ②「書くこと」において、図表を用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	①粘り強く、伝えたいことを明確にしたり書き表し方を工夫したりし、学習の見通しをもってポスターと解説する文章を書くこととしている。

2 本単元における「深い学び」の実現に向けて

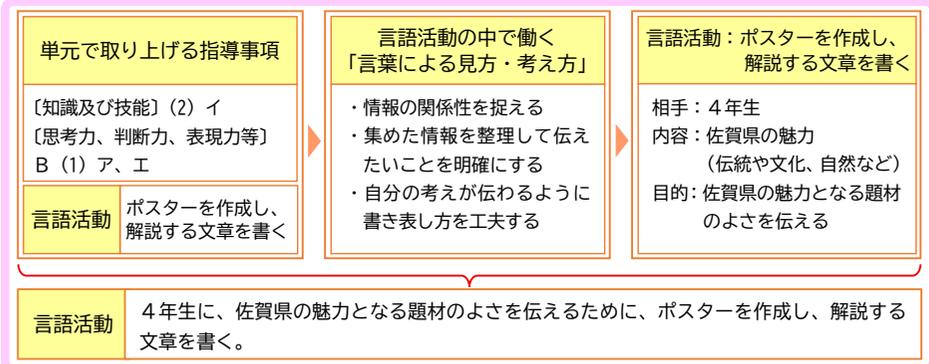
(1) 「深い学び」を実現している姿とは

必要な情報を選んだり関係付けたりするといった「言葉による見方・考え方」を働かせながら、伝えたいことを明確にし、読み手に伝わるように書き表し方を工夫して、ポスターを作成し、解説する文章を書いている姿。

(2) 授業の実際

ポイント① 「言葉による見方・考え方」が意識的に働く言語活動の設定

本単元では、「ポスターを作成し、解説する文章を書く」という言語活動を設定します。学習を展開する中で、「4年生に、佐賀県の魅力となる題材のよさを伝えるために、ポスターを作成し、解説する文章を書く」という目的や相手を意識するよう促すことで、児童は、集めた情報を整理して伝えたいことを明確にし、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫していく必要があるという見通しをもつことができます。



ポイント② 単元で働かせる「言葉による見方・考え方」の自覚化

指導と評価の計画 (全6時間)

時	主な学習活動	評価規準・【評価方法】
1	○単元全体の学習の見通しをもち、学習計画を立てる。	
2	○佐賀県の魅力について考え、書く題材を決める。	
3	○題材を基に、様々な調べ方で情報を集める。	[思考・判断・表現①] 【1人1台端末の記録・観察】
4	○集めた情報を整理し、ポスターや解説する文章で伝えたいことを明確にする。	[知識・技能①] 【1人1台端末の記録・観察】
5	○割付けを考えて、ポスターを作成する。	[思考・判断・表現②] 【1人1台端末の記録・観察】
6	○ポスターと解説する文章を推敲し、完成させる。	[主体的に学習に取り組む態度①] 【振り返りの記録】

*ポイント②の具体を、第1時と第5時を取り上げて、説明します。

《単元を通して働かせる「言葉による見方・考え方」の見通しをもつ場面 (第1時)》

言語活動の目的や相手を見通しと共有することで、児童は、どのような「言葉による見方・考え方」を働かせればよいかという見通しをもって学習に取り組むことができます。

※**ハイライト**の部分は、児童が働かせている「言葉による見方・考え方」を示しています。

学習課題

この単元では、目的に応じて情報を関係付けながら、相手に分かりやすく伝える力を伸ばす学習をします。

4年生に、佐賀県の魅力となる題材のよさを伝えるために、ポスターを作成し、解説する文章を書くことです。

①身に付けさせたい資質・能力
②目的や意図の明確化
③言語活動

単元の学習課題は、次のとおりです。解説する文章では、選んだ佐賀県の魅力となる題材について、必要な情報を整理し、伝えたいよさを明確にすることが大切です。また、ポスターを作成する際には、解説する文章と写真とを関係付けて、4年生にその題材のよさが伝わるように工夫することが大切です。

4年生は、自分たちの町や佐賀県について学習しています。そのような4年生に向けて佐賀県の魅力となる題材を選ぶとしたら、どのような題材を選ぶとよいですか。

4年生が学習していない、場所や行事などを選ぶとよいと思います。

では、その題材のよさを4年生に伝えるためには、どのような工夫が必要ですか。

「よさは〇〇です」と書くだけではなく、どうしてそう思うのかという理由を書くと、4年生にも分かりやすく伝わると思います。

ポスターには、題材のよさがすぐに分かるような写真を使うとよいと思います。そうすると、4年生も「行ってみたい」「見てみたい」と感じると思います。

そうですね。では、題材のよさを伝えるとき、文章と写真にはそれぞれどのような役割があるでしょうか。

写真は見るだけで様子や雰囲気が伝わります。文章があると、写真だけでは分からないことやどうしてそれがよいのかという理由を説明できます。

では、文章と写真の役割を生かして、目的に合った情報を選び、4年生に佐賀県の魅力となる題材のよさが伝わるように工夫しながら、ポスターと解説する文章を作成していきましょう。

《ポスターと解説する文章を推敲し、完成させる場面 (第5時)》

整理した情報のモデル (資料1) と、ポスターと解説する文章のモデル (資料2) を提示し、佐賀県の魅力となる題材のよさとその理由を整理しながら、写真やキャッチコピーとの関係を捉える活動を行います。児童は、これらのモデルを基に、題材のよさと理由とのつながりを読み取り、それらが写真やキャッチコピーとどのように対応しているかを考え、さらに、自分のポスターと解説する文章を見直す中で、情報同士を関係付けて捉える「言葉による見方・考え方」を働かせます。

《活動の見通しをもつ場面》

※ハイライトの部分は、児童が働かせている「言葉による見方・考え方」を示しています。

今日は、みなさんが書いたポスターと解説する文章を見直し、題材のよさが伝わるように完成させましょう。

先生が整理した情報のモデルを見てください。県内一周駅伝にはどのようなよさがありましたか。

「仲間と意思をつなぐ」というよさです。

そうですね。先生は、どうしてそう考えたのでしょうか。

「たすきは仲間への思いが込められた大切なもの」と考えたからです。

「選手は次の走者につなぐために一生けん命走っている」とも考えたからです。

そうですね。「仲間と意思をつなぐ」というよさには、そうした理由があるのだと分かりますね。では、ポスターと解説する文章のモデルを見て気付いたことはありますか。

よさを表すために、たすきを次の走者につなげている写真が使われています。

キャッチコピーの「仲間を信じ かけぬけろ」もよさにつながっています。

解説する文章にも、「次の走者にたすきをつなぐために、一生けん命走っている」と書いてあるよ。

本当だ。よさと理由が、写真やキャッチコピーとも関係付けてあるんだね。

とてもよい気付きですね。ポスターに使われている写真とキャッチコピー、解説する文章は、どれも伝えたい題材のよさを基に選んだり書いたりすることで、そのよさを支える理由が分かるように工夫しているのです。

今日は、みなさんが作成したポスターと解説する文章を、3つのポイント (資料3) に着目して、題材のよさが4年生にもっと伝わるように見直していきましょう。

佐賀県 県内一周駅伝	
よさ	仲間と意思をつなぐ
理由	選手は次の走者につなぐために一生けん命走っている。
	たすきは仲間への思いが込められた大切なもの
地いきの人の思い	町ごとに応援ながながしい、地いきの団結が見られる。
	地いきの人が応援や運営で支えている。

資料1 整理した情報のモデル

仲間を信じ かけぬけろ

たすきを次の走者につなげている写真

ほこりをむねにつなげ きょう土のたすき

毎年2月に行われる「県内一周駅伝」のよさを伝えたいと思い、この駅伝をポスターの題材に選びました。私は「県内一周駅伝」には、仲間と意思をつなぐというよさがあると考えました。そのよさをより強く伝えるために、キャッチコピーでは興味を引く工夫をしました。「努力」や「あせ」「走る」「走る」といった駅伝からすぐに思いが表す「ほこり」という言葉を選びました。また、実際に走っている選手にインタビューすると、駅伝では次の走者にたすきをつなぐために一生けん命走っているという話を聞きました。そこで、この思いを表すために、たすきをつなぐしゅん間の写真を選び、キャッチコピーにも「つなぐ」や「たすき」という言葉を入れしました。

資料2 ポスターと解説する文章のモデル

- 見直しの3つのポイント
- 一番伝えたいよさがはっきり示されているか確認する。
- よさを支える理由が示されているか確認する。
- よさと理由とのつながりが分かるように、写真とキャッチコピー、解説する文章を整える。

資料3 見直しの3つのポイント

《自力解決を図る場面》

ポスターには職人が和紙をすいている作業の写真を使ったけれど、解説する文章には「うすくてきれいな佐賀の和紙」と書いているから、**これでは4年生に何を伝えたいのかわかりにくいかもしれないな。** (資料4)

Aさんが気付いた、写真と文章とのずれは大事な視点ですね。選んだ写真が伝えたいよさに合っているか、読み手が写真をどう受け取るかを考えてみるとよいかもかもしれません。

--- 児童Aは、児童Bに相談に行く ---

写真は作業の様子だけど、文章は佐賀の和紙が薄いことをよさとして伝えている感じがするね。

私が伝えたいよさは「しよく人の努力で、うすいのにとてもじょうぶに作られている」ということなんだ。

それを支える理由として、ワークシート (資料5) の中で、使っていない情報は無いの？

「一つ一つの工程をととてもいねいな手作業で行っている」という情報は文章ではまだ使っていなかったな。これを入れると「しよく人の努力で、うすいのにとても丈夫に作られている」というよさがもっと伝わりそうだ。

この写真だと全部手作業でいねいにすいていることは分かるけど、「うすいのにとてもじょうぶ」なことは伝わりにくいかもしれないね。

光にすかした和紙の写真も加えて、キャッチコピーを「職人がつくりだす、うすくてつよい佐賀の和紙」にすれば、よさとその理由、写真、キャッチコピーを関係付けることができるね。 (資料6)

ていねいにつくられる 佐賀の和紙

職人が和紙をすいている作業の写真

300年以上続く佐賀の伝統工芸である和紙のよさを伝えたいと思い、佐賀県で作られる和紙を題材に選びました。うすくてきれいな佐賀の和紙は、300年以上続く佐賀の伝統工芸です。そのよさを伝えたいと思い、佐賀県で作られる和紙を題材に選びました。

資料4 推敲前のポスターと解説する文章

佐賀県の伝統工芸 和紙	
よさ	しよく人の努力で、うすいのにとてもじょうぶに作られている。
理由	伝統のわざを守り続けている。
	一つ一つの工程をととてもいねいな手作業で行っている。
使われ方	ちょうちんやしよじ紙に使われる。
	有田焼の包そう紙に使われる。

資料5 児童のワークシート

しよく人がつくりだす、うすくてつよい 佐賀の和紙

光にすかした和紙の写真

職人が和紙をすいている様子の写真

300年続く 佐賀の和紙

300年以上続く佐賀の伝統工芸である和紙のよさを伝えたいと思い、佐賀県で作られる和紙を題材に選びました。また、佐賀の和紙のよさとして、しよく人の努力で、うすいのにとてもじょうぶに作られていることを伝えたいと考えました。佐賀の和紙は、原料づくりから紙すきまでの全ての工程をしよく人が手作業で行い、一つ一つの作業をととてもいねいに繰り返されています。そのようにていねいな仕事によって生まれる佐賀の和紙を、4年生にも知ってほしいと思ったからです。

資料6 推敲後のポスターと解説する文章

《「言葉による見方・考え方」の確認と活用を促すための振り返りを行う場面 (第5時)》

「言葉による見方・考え方」の確認と活用を促すための振り返りの視点を示すことで、児童は、学習活動を振り返り、見方・考え方を自覚し、次の学習に活用することができるようになります。

《振り返りを行う場面》

今日の学習活動を振り返りましょう。振り返りを行うときは、何ができたかだけでなく、**どうやったらできたか**について書きましょう。また、**それを次の学習にどのように生かしたいか**についても書きましょう。

今日の学習では、題材のよさとその理由を関係付けながら、写真やキャッチコピー、解説する文章を見直すことができました。 次の学習では、今回気付いた情報の関係付けの仕方を生かして、友達とのポスターと解説する文章を読み、よいところをたくさん伝えたいです。

今日の学習では、集めた情報を整理し、題材のよさと理由を写真やキャッチコピーと関係付けて書き表すことができました。 ほかの学習で、説明する文章を書いたり意見をまとめたりするときに、情報の整理や関係付けを生かして、自分の考えが伝わる文章を書きたいです。